

## 単元名

## 本通みんなで防災

令和3年12月13日  
男子11名 女子13名 計24名  
第5学年1組教室

## 本単元で育成する資質・能力

知識・技能, 思考力・判断力・表現力, 主体性・積極性

## 1 単元について

## ○ 単元観

広島県では、過去に西日本豪雨災害に見舞われ、呉市でも多くの建物が被害を受け、尊い人命を奪われてしまったという経緯がある。被害を免れた場合でも、電気やガス、水といった生活に必要なライフラインが復旧できず、何日も市民の生活が通常の生活に戻らなかった。これを受け、県では、防災に力を入れ、「ひろしまマイ・タイムライン」や「防災のしおり」等を使って、学校教育の段階で防災に取り組むことを進めている。

本単元では、防災に焦点をあて、身近な地域の防災について調べ、命を守る方法について考え、地域に発信していくことをねらいとしている。

身近な防災について、本やインターネットで調べたり、現地取材等で情報を集めたりする活動は、「主体性・積極性」「知識・技能」の育成につながると考えられる。

また、集めた情報を比較・分類・関連付けながら必要な情報を選び、相手意識をもって情報を発信することで「思考力・判断力・表現力」を育成することができると考えられる。

以上のことから、本単元は本校で育成したい資質・能力を効果的に培うことができると考えられる。

## ○ 児童観

本校は「防災」を学校教育の核として捉えており、学校全体で防災に取り組んでいる。本学級の児童も、4年生から防災についての学習を進めてきており、事前アンケートの結果、防災は必要と答えた児童は100%だった。しかし、今までに災害によって停電や水不足に悩んだことのある児童の割合は、24%と低く、ほとんどの児童が災害による困難を経験していないことが分かった。

また、「調べたことをまとめていくことが好きか。」という問いに対し、好きと答えた児童の割合は80%だった。これまでの学年での学習で、課題を解決していくための手立てがなされ、技能面や思考面が育っていると思われる。しかし、「調べたことを発信(発表)するのは好きか。」という問いに対しては、好きと答えた児童は48%と低く、半数にも満たなかった。また、「地域の行事に参加しますか。」という問いに対し、参加すると答えた児童の割合も48%と低く、地域との交流も少なく、地域住民と会話をする場がもてていないことが分かった。

これらのことから、本学級の児童は、相手意識をもって、主体的に表現しようとすることに課題があると考えられる。

## 2 研究主題に迫るための手立て

## 課題設定

- ① 本質的な問いを「わたしたちは、地域とどうつながり、生きていくのか」に設定した。本単元では、地域の防災を進めるために、自分たちに何ができるのかを思考し、調べたことを多様な形式で地域に発信することで、相手意識・目的意識をもたせる。
- ② 国語科や社会科で学習したことや地域での取材、インターネット等で知り得た知識を基に、身近な防災について考えさせ、地域に発信したいという思いをもたせる。

## 情報収集

- ① 本やパンフレット、インターネット、現地取材等、様々な方法を使って身近な防災についての情報を集めさせる。

## 整理分析

- ① 災害の起こる理由、予知といった知識から、その後の判断に関連付けられるようにするため、集めた情報の共通点や関連性を考えさせ、比較・分類させる。
- ② 個の住環境によって判断に違いが出てくることを理解させ、集めた情報から必要な情報を活用させる。

## まとめ 創造 表現

- ① 調べてきたものを、表現の対象や時期、コロナ対策等の諸要素と関連付けながら、より適した表現方法で発信できるよう考えさせ、実践させる。
- ② 冬まつりの場を利用して、多くの人に防災の大切さを伝えるための方法や役割分担について考えさせる。

## 実行 振り返り

- ① 今後、自分は地域とどうつながり、生きていきたいのかを考えさせ、地域の一員として地域を大切にすることを育てる。

### 3 単元の目標

身近な防災について深く調べることを通して、大切な人や地域を守るために自分にできることは何かを考え、多くの人に防災の大切さを多様な方法で伝えることができるようにする。

### 4 本単元で育てようとする資質・能力

#### (1) 知識及び技能等（知識・技能）

- 既知と新しい知識を関連付けたり、組み合わせたりして、防災に対する新しい知識を身につけることができる。

#### (2) 思考力・判断力・表現力等（思考力・判断力・表現力）

- 災害が起こる理由や予知、災害が起きた後の対応等、必要な情報を比較・関連づけ・整理分析して課題解決について論理的に考え、根拠を明確にして伝えることができる。

#### (3) 学びに向かう力・人間性等（主体性・積極性）

- 生活環境ごとに身近に起こりうる災害を自ら見付け、課題解決のために主体的に取り組み、積極的に地域に発信することができる。

### 5 本単元の評価規準

育てようとする資質・能力		評価規準
(1) 知識・技能	知識・技能	①災害が起こる理由や予知等、災害時にその後の行動を判断するために必要な知識や情報を多様な方法で収集し活用している。
(2) 思考力・判断力・表現力	思考力・判断力・表現力	①相手意識や時期、コロナ対策等の諸要素を関連づけ、より適した表現方法を選んでいる。 ②防災に必要な情報を比較・分類・関連付けながら考えを深め、多くの人に防災の大切さが伝わるように表現している。
(3) 学びに向かう力・人間性	主体性・積極性	①生活環境ごとに身近に起こりうる災害を自ら見付け、課題解決のために主体的に調べたり考えたりする活動に取り組み、地域に発信している。

### 6 指導計画（全 30 時間）

主な学習活動	時数	指導上の留意点	評価規準（評価方法） 育成すべき資質・能力	教科等との関連
<b>【課題設定】</b> ○ 災害から身を守るためにわたしたちに必要な力は何かを考え、話し合う。 ○ 身近な災害について考え、調べたい項目ごとにグループづくりをする。	4	○ 災害から身を守るためには「知識」と「判断力」が大切になることを過去の事例をもとに気付かせる。 ○ 災害を身近に感じられるよう、災害を「洪水」と「土砂災害」にしぼり、災害と関連が深い住環境ごとにグループ分けをする。	(3) ①生活環境ごとに身近に起こりうる災害を自ら見付け、課題解決のために主体的に考えようとしている。 （発言・ワークシート・振り返りによる自己評価）	国語科 「事実と考えを区別しよう」

<p><b>【情報の収集】</b></p> <p>○ 本やパンフレット、インターネット、現地取材等から情報を集める。</p>	12	<p>○ 本やパンフレット、インターネットで調べたり、学校施設内や家の周りを調査したりすることで、災害が起こる理由や予知、災害が起きた後の対応等の知識を得ることができるようにする。</p> <p>○ 家の周りで危険箇所を調べる際は、タブレットを使用し、降雨後の家の周りの様子を家庭学習で安全に気を付けながら撮影させ、防災や災害後の行動の判断基準とさせる。</p>	<p>(1)①災害が起こる理由や予知等、災害時にその後の行動を判断するために必要な知識や情報を多様な方法で収集し活用している。 (行動観察・ワークシート)</p>	<p>社会科 「国土の気候と特色」</p>
<p><b>【整理・分析】</b></p> <p>○ 収集した情報を、災害が起こる理由や予知、災害が起きた後の対応等の観点で分類・整理、関連付けする。</p> <p><b>【まとめ・創造・表現】</b></p> <p>○ 伝えたい表現方法を決める。</p>	4	<p>○ 調べた情報から必要な情報を見つけて分類・整理させる。</p>	<p>(2)② 防災に必要な情報を比較・分類・関連付けしながら考えを深めている。 (行動観察・ワークシート)</p>	
<p>○ 自分たちで決めた表現物を作る。</p>	1	<p>○ ポスターやリーフレット等の表現物の良さと欠点を考えながら、表現の対象や時期、コロナ対策等の諸要素と関連付けてより適した表現方法話し合わせる。</p>	<p>(2)① 相手意識や時期、コロナ対策等の諸要素を関連づけ、より適した表現方法を選んでいく。 (発言・振り返りによる自己評価)</p>	<p>国語科 「新聞記事を読み比べよう」</p>
<p>○ 表現物をよりよくするために検討会をもち、冬まつりでどのように発信するか話し合う。 (本時1/3)</p>	3	<p>○ グループごとに表現物を作成させる。作成の際には、他グループと適宜交流の場をもたせ、お互いの良い点を吸収するよう声かけをする。</p>	<p>(2)② 多くの人に防災の大切さが伝わるように表現している。 (発言・振り返りによる自己評価)</p>	<p>国語科 「敬語の使い方」</p>
<p><b>【実行・振り返り】</b></p> <p>○ 冬まつりで防災の大切さについて発信する。</p> <p>○ 振り返りをする。</p>	2	<p>○ 役割に応じて、冬まつりで防災の大切さについて発信させる。</p>	<p>(2)② 多くの人に防災の大切さが伝わるように表現している。 (行動観察)</p> <p>本質的な問いに対して自分の考えをまとめることができている。 (振り返りによる自己評価)</p>	<p>地域行事 「冬まつり」</p> <p>特別の教科「道徳」C17 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度「歴史の見える丘から見えたもの」</p>

7 本時の展開 (本時 25 / 30時間)

(1) 本時の目標

- 作成した表現物が地域の人にとって本当に必要な情報になっているか検討することができる。

(2) 学習の展開

	学習活動 ◆ゴールの姿	○指導上の留意点 ●配慮を要する児童への手立て ◎思考を働かせる工夫	○評価規準 (評価方法) ◆資質・能力
課題の設定	1 本時までの学習を振り返る。	○ 「冬まつり」での発表に向けてまとめてきたことを確認する。(ぼく・私の学び)	
	2 本時のめあてを確認する。		
表現物が地域の人にとって本当に必要な情報になっているか考え、改善点を検討し合おう。			
情報の収集	3 表現物の内容から、分かりにくいことや、もっと知りたいことを出し合う。	○ 話し合いの視点、時間設定を確認する。 ○ 「洪水」「土砂災害」の両グループの担当児童が説明し、それ以外の児童はお互いの改善点について考える。 ◎●「災害が起きそうな時」「災害が起きてしまったら」という視点で、お年寄りや体の不自由な人の立場から必要なことを考えさせる。 ○ 付箋を使って、気づきをメモにして貼らせる。	
	4 表現物の改善点について検討し合う。	○ 貼られた付箋をもとに、グループで改善点について検討させる。即答できないものについては、課題として調べることとさせる。 ◎ 考えを個人からグループへと広げることで、多様な考えを引き出させる。 ● 貼られた付箋の1つの内容に集中して考えさせる。 ○ 付箋と対応させながら、改善する点を説明させる。即答できないものは課題として調べておくことも付け加えさせる。	
情報の整理・分析	5 改善点について交流する。(全体) (◆ 改善する内容と、今後の課題について説明している。)		○ 児童が調べた情報を比較・分類・関連付けながら考えを深めている。 (行動観察・振り返りによる自己評価) ◆思考力・判断力・表現力
まとめ 振り返り	6 本時のまとめをする。		
	7 「今日のなるほど、明日のために」を書く。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>【期待される振り返り例】 今日は改善する点を話し合っで見つけることができました。次の時間は課題として残った○ ○について調べていきたいです。</p> </div>			

### (3) 板書



## 8 育成すべき資質・能力に係る成果と課題

### 「知識・技能」について

- 「ひろしま防災ハンドブック」や「ひろしまマイ・タイムライン」等の防災に関わる資料も入手しやすく、タブレットを使っ  
ての調べ学習も可能となった。これらのことから、児童の調べ学習に対する意欲も高まり、災害が起こる理由や災害時の避難方法等、防災に必要な知識や情報を多様な方法で収集する技能がついてきた。
- 児童を生活環境ごとにグループ構成することで、土砂災害や洪水といった自分の身近で起こりうる災害にしぼってくわしく調べることができた。また、一戸建ての場合、マンションの場合と分けることにより、より具体的な対応についての知識を得ることもできた。
- 本学級の児童は、今までに災害によって停電や水不足に悩んだことのある児童の割合は、24%と低く、ほとんどの児童が災害による困難を経験していない。また、地域の行事によく参加している児童の割合も48%と低かった。知識を得ることはできたが、今後、地域の防災活動等に参加し、防災の必要性をより一層体感させることが課題となる。



### 「思考力・判断力・表現力」について

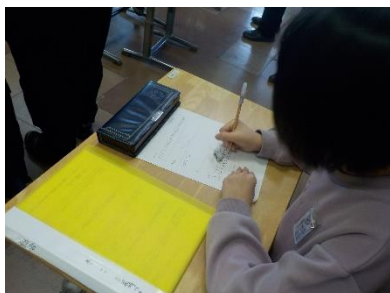
- 災害を、児童にとってより身近なものに限定し、「土砂災害」と「水害」にしぼることで、それらから身を守る方法について焦点化して調べることができた。また、住まいをマンションと一戸建ての2つに分けることにより、災害の際の避難方法や避難経路に違いがあることに気付く等、集めた情報を比較・分類・関連付けながら必要な情報を選び、相手意識をもってまとめることができた。
- 発信内容についてグループで改善点について話し合った際、「自分たちは分かっている、見る人にとって本当に分かりやすいものなのかを考えよう。」等、相手意識をもった発言も出てくるようになった。また、「調べたことを進んで発信したい」という児童は、48%と低い数値だったが、情報は対面で発信するだけでなく、ポスターやリーフレットを使って間接的に思いを伝える発信方法も効果的な発信方法の1つだと分かり、自主的に活動する児童が増えた。事後アンケートでは、92%の児童が「調べたことを進んで発信したい」と回答し、発信することに対する自信へつながった。



- 多様な発信方法があることを理解し、調べたことを発信する意欲も高まってきた。しかし、内容によっては対面で伝えた方がよい場合もある。本学級の児童はこのことを苦手としているものも多く、学級活動や国語科を中心として、様々な教科で思いを伝える活動を意図的に仕組んでいく必要がある。

### 「主体性・積極性」について

- 2月に実施予定の冬まつり（地域合同防災訓練）で、学習した内容を地域の方々に伝えるため、地域に発信する表現物を「ポスター（直接会場で見ってもらう）」「リーフレット（模造紙の内容を簡略化し、持ち帰ってもらう）」「しおり（防災に関わる言葉を添えて日常で使ってもらう）」の3つとし、作成に取り組んでいった。児童の関心度や技能により、活動を選択させたことにより、主体的・積極的に関わるようになり、自ら時間を見つけて取り組もうとする児童も見られるようになった。
- 生活環境ごとに身近に起こりうる災害を自ら見付け、課題解決のために主体的に調べたり考えたりできる児童は増えてきた。しかし、ほとんどの児童が災害による困難を体験しておらず、危機感をもって考えていなかったため、防災の大切さをより実感させるために「ひろしま防災ハンドブック」や「ひろしまマイ・タイムライン」等の資料を使った学習を今後も継続していく必要がある。



#### 児童の「今日のなるほど・明日のために」(振り返り)の記述や発言から

- 人に聞いて（見て）もらうと欠点がみわかりました。それらを生かしてもっといいものにしたいです。
- 自分たちが考えていなかったことを見ていることがわかりました。よりよいポスターになるようがんばります。
- 他の班の発表を聞いて、アドバイスをすることができました。自分たちの班でも、アドバイスしてもらったことをもとに、改善していきたいと思います。
- 意見を出し合うことは大切なんだと改めてわかりました。一人一人の意見を大切にしたいです。
- 自分たちには分かっているけれど、見る人にとって本当に分かりやすいものなのかを考えて作らないといけなかった。